

よんまち かけ橋新聞

yonmachi kakehashi newspaper

#9





2



3



4



よんまち人に
会いに行く。



江戸時代から
地域の茶文化を
支える

今回訪れたのは、本通商店街にある『さかい茶舗』さん。

商店街のイベントで、ご夫婦でお客さんにお抹茶を点てられている様子がとても印象的で、この度お話を聞かせていただくことになりました。

さかい茶舗さんは、なんと創業150年。文久三年の江戸時代から、お茶の小売業をされています。大阪の堺で初代が始めてから、現在の酒井倭樹さんで4代目となります。この辺りのお茶屋さんでは一番古い歴史を持つ、福山の茶の文化を支えてきたお店とも言えますね。

創業当時は、現在の南小学校辺りにお店を構えていたそうですが、戦後の昭和21年、現在の場所に移ったそうです。当時、この通りは城下町の文化の名残も

『人との関わりを楽しむ場所』

欲しいものがあつたとき、ネットですぐにも買えるかもしれないし、大きな店に行けば簡単に手に入るかもしれない。だけどそれだけでは得られないものがあるのが商店街。

お店の人の顔を知る、話をすることから生まれるほっこりした時間はお金では得られない特別なもの。生活の安心感にも繋がります。お店の「人」をお伝えすることで、そんな商店街と訪れる人との関わりを繋げたいと思います。

今号のよんまち人

本通商店街 さかい茶舗

酒井 倭樹さん・酒井 美栄子さん

残り、呉服屋さんや履物屋さんなどのお店が多く、その相乗効果もあり、お茶や茶道具を求めお客様もたくさん来られたそうです。

「昔は花嫁修行で茶道を習うことが多かったですからね。昔から来て下さっている先生もいらっしやいますよ。」

小さな頃からずっと商店街で育った倭樹さんにとって、街への思いも特別なものがある。近所のお店には同世代の方々も多く、「よく遊びました。当時は保育園に行くのにリアカーに乗って行ったり。みんなこの街で大きくなって、お店を継いで、今でも変わらずご近所です。」

1. 玄関から入ると、お茶の葉が入った箱がずらり。抹茶といえど、風味の違いでさまざまな種類がある。茶道に使われるお茶だけでなく、家庭用にも使える茶葉も多くあります。

2. 外でお茶を飲む光景も。

3. 4碗の種類も豊富。素朴なものから、季節を感じる華やかな絵付けが入ったものなどいろいろ。他の茶道具とのバランスや、シチュエーションによって、無限の楽しさが広がります。



1.2.街のイベントでは、座りながらの茶の湯を楽しんでいただくワークショップを開催。参加者の人もみんな笑顔で、初めての茶の湯を楽しんでいる様子でした。
3.夏休み中の子どもに向けたワークショップ「英語で茶の湯の様子」

MAP
1 さかい茶舗

福山市今町2-13
☎084-999-3111
営10:00~18:00
休不定休
sakaichaho.jimdofree.com
Facebook さかい茶舗 SAKAI CHAHO
@sakaichaho



お店のイチオシコーナー

お茶の教室
茶道立礼入門コース
椅子に掛けて行う点前。

受講料 11,000円(全6回/月2回)
表千家 第1・第3金曜日14:00~
裏千家 第2・第3木曜日14:00~
その他、いろんなクラスあります。
詳しくはホームページにて



さかい茶舗オリジナル
ほうじ茶 150円

イベントでも大人気!
自然派の人にも優しい
イトウモロコシできたバックです。

この街で
時代に沿った
茶の楽しみ方を

現在、さかい茶舗さんでは、従来の茶・茶道具の小売業にプラスして、「お茶の淹れ方教室」「茶道の立礼クラス」、また夏休み中の子どもに向けて、英語で茶の湯をするユニークなワークショップもされています。さらには、フェイスブックなどのSNSを活用したお

店の情報発信、ホームページでの商品販売など、お二人で新しいことに挑戦中。他の取り組みも参考にしながら世の中のニーズに合わせたお茶の楽しみ方を研究されています。
「お茶の文化を残していくために自分たちができることをしたい。社会も変化して、ライフスタイルも多様化しているから、伝統を大事にしながらも、今の人に合ったやり方で、お茶の文化や奥深さをたくさんの人に伝えて、まずは気軽に楽しんでもらいたい。趣味で習

い始める方もいらっしゃいます。自分でお茶を点てた時のうれしそうな顔が私達も励みになります。」
今回、何の予備知識もないまま取材をさせていただいたのですが、お二人を通して触れる茶の文化に、何かもっと自分を大切にしている時間や人に喜んでもらう時間を学びたいなと感じました。
さかい茶舗さんのいろんな人に喜んでもらいたいという思いから来る無限のチャレンジ精神、これからもお茶を通してたくさんの人に届いてほしいです。



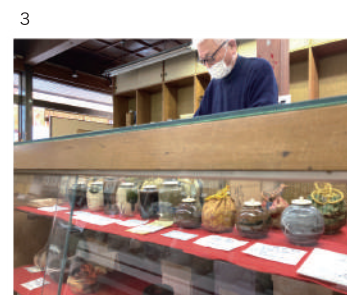
夫婦で
二人三脚の日々

倭樹さんが4代目を継いだのは17年前。奥様の美栄子さんは、それまでの仕事を辞め、倭樹さんと一緒に店をやって行くことに。夫婦二人三脚の日々が始まります。
「大変でした。まずはひたすら勉強です。お茶のこと全般、茶道はもちろん道具のことも自分が深く知っていないと、お世話になっている(お茶の)先生方の話も分からない。道具に対する目利きや、お茶に関連する文化も、本当にいろんな所に一緒に勉強に行ったよね。」

お二人のお話を聞きながら、店内を見渡すと、一言で茶道具と言っても実に色々なものがあり、これを覚えるのは大変なことだろうと感じますが、色々な所を巡ったお話しされている様子を見ると、大変なこともお二人で楽しみながらできてきたのだなと感じます。



1・2美栄子さんがたててくれたお抹茶。椅子に座りながらいただきました。口に入れた瞬間、新緑のような新鮮な香りがスッと入り、その後じんわりと旨味を感じました。気持ちはずっきりして、不思議と心が整ったような気がします。お茶って本当にすごい文化です。



3・4香合、茶入、掛け軸など、扱われているものの幅広さに驚きます。



New Open !!

誠実なシェフの作る、誠実な料理
洋食レストラン サンセール



美味しい洋食が食べたい人にぜひオススメしたいお店があります。飲食店の多いJOY船町の通りに、洋風の外観と赤い入り口の洋食レストラン・サンセール。中に入るとすでにお肉のいい匂い。迎えてくれたのは、シェフの山岸さん。山岸さんはフランス料理店やステーキ店などの経験を積み、料理への探究心から、フランスに修行に行ったほど。中でもランチに付いているエビフライは、誰もがびっくりするほどの大きさ。ソースやドレッシングも自家製にこだわっています。ランチセットはハンバーグやステーキなど、いろんな種類があり、リーズナブルな価格で本格的な洋食が楽しめます。大きなコックの帽子を被る山岸さんにお似合いですねと言うと「洋食レストランと言えば、やっぱりこれ。被ったら何か(気持ち)が違うんですよ。なんとなく。」お店の名前の『サンセール』は、誠実、と言う意味。自らの仕事にも、食べに来られる人にも誠実な、山岸さんを表したような言葉だなと感じました。

MAP
2 洋食レストラン サンセール

福山市船町1-24
☎084-931-3320
営業月・木〜日(火はlunchのみ)
昼 11:30~15:00
夜 17:30~21:00
※L.Oは1時間前です。
休水曜日・火曜日夜
<https://sincere.owst.jp/>



1.ランチのAセット。旨味が凝縮した国産牛ハンバーグと大きなエビフライ。ライスとサラダ、ドリンクが付いて税込1,300円。ステーキやポークヒレカツのセット、平日限定の日替わりランチもある。夜のメニューも充実。

2.シェフの山岸拓也さん。
女性客も一人で来やすい店内です。



よんまち百景15.

商店街のちいさな幸せみつけた!
まるしえのマルシェ



11月3日、文化の日。晴天にもめぐまれたこの日は、よんまちの4商店街が協力して企画するイベント「まるしえのマルシェ」が無事開催されました。今回で9回目の開催となりましたが、9回続けると、おなじみのイベントとして来る人にも定着してきているように感じます。出店された方や来られている方の笑顔が印象的でした。また、回を重ねるごとに店の前に商品を出したり、ワークショップをしたり商店街のお店の方が参加されている光景も増えたように感じます。当初はコロナ禍もあり、開催可否は難しい判断だったようですが、どのような形であれ、続けることに意味があるとの4商店街の思いが一致し、それを感じるイベントとなりました。コロナ禍でのイベントの着地点は、人の賑わいとは少し違って商店街と出店する方、訪れた人が一緒になって作り出す「ほっとする温かい繋がり、関係性」なのかなあと、ふと感じたイベントでした。



News 小さな移動サービス「グリスロ」を楽しもう!!

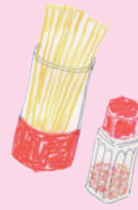
イベントでも走っていたこの車、グリーンスローモビリティと言って、気軽に移動、乗り降りできる小さな移動サービス。2022年1月末まで、よんまちの商店街でも実証実験しています。まるでテーマパークの乗り物のような楽しさ。中心市街地の活性化や賑わい創出につながる取り組みとして、今後もぜひ注目です。



編集部の食レポ



今号のうまいもん



中華ダイニング青冥の五目スープそば

ぷりぷりのエビやイカ、ホタテなど豊富な魚介と、しっかりしたお肉。あんに絡んで食べ応えバツグン。



白菜やエンドウ、キクラゲなど、野菜もたっぷり。食感を楽しめる。

食後のデザート杏仁豆腐もオススメです！

澄んだスープは、老舗ならではの迷いのない王道の味。トロツとしたあんと相性バツグン。

MAP 4 中華ダイニング青冥

福山市船町4-1
☎084-931-3505
営業: 11:30~14:30 (LO14:00)
夜: 18:00~22:00 (LO21:00)
休月曜日※祝日の場合は翌日
chuukadining-ching-ming.com



ダイエット中のよんまち編集部員は通常の麺を糖質オフ麺に変更。普通の麺と全く変わらない美味しさに驚きの一言。ダイエット者にもオススメです。

編集後記

よんまち新聞は、4つの商店街「きたはま通り商店街」・「船町宝船会商店街」・「本通商店街」・「本通船町商店街」が共同で発行する商店街の「面白いこと・人」を集めたフリーペーパーです。いまだコロナ禍ではありますが、4つの商店街では恒例のイベントも開催され、少しずつ日常を取り戻しつつあります。今号からは、よりお店の「人」を焦点として、人と人をつなぐツールとして冊子を目指していきます。

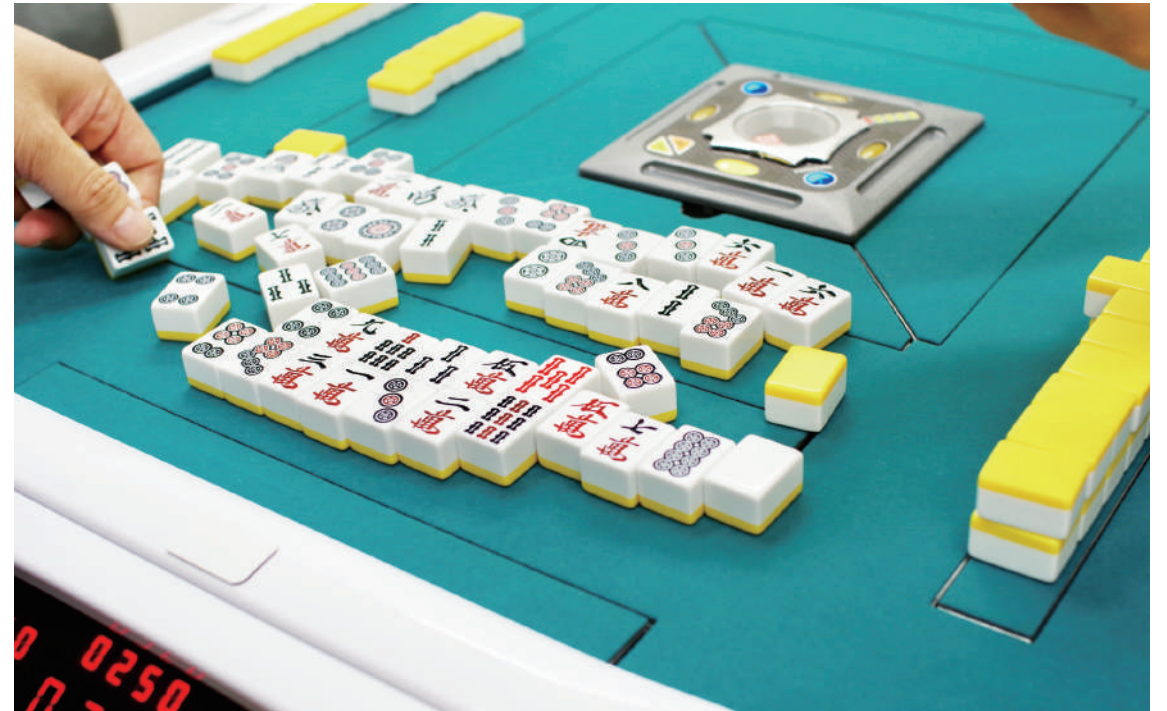
今回のよんまち新聞にご協力いただいた方々
取材協力:
酒井 優樹(さかい茶舗)
酒井 美栄子(さかい茶舗)
山岸拓也さん(洋食レストラン サンセール)
市川裕史さん(マーじゃんルークmahjong LUKE)
中華ダイニング青冥さん

企画・制作
よんまち編集部 安原幸雄(株式会社 安原楽器) / 木村桃子

よんまち新聞

New Open !!

趣味や競技で楽しむ時代
マーじゃんルーク mahjong LUKE



今、純粋にテーブルゲームとしてマーじゃんを楽しむお店がちょっとしたブーム。認知症予防の効果もテレビでも紹介され、健康マーじゃんとも言われています。

「趣味の一環として、楽しみながら脳トレにもなり、人と一緒にやることでコミュニケーションも生まれる。世代を超えて気軽に楽しむ人が増えてます。」

そう話すのは店長の市川さん。オープンして5ヶ月ほどだが、どうやってやるの?と初めての人も来ることもあり、ルールなどを一から丁寧に教えるそうです。

「これまではマーじゃんと言うと、ギャンブルのイメージがありました。競い合うマーじゃんもあり、普及しています。若い人の中には、そこから興味を持って来る人もいます。実際に対戦をして、実力をつける場所にもしていきたい。」

ご自身もマーじゃんファンの市川さん。お話を聞きながら、もっと沢山のひととマーじゃんの楽しさを共有したいという思いを感じました。

MAP 3 マーじゃんルーク mahjong LUKE

福山市笠岡町2-1 2F
☎084-999-3111
営業: 12:00~20:00
休年中無休
@LUKE34534116



1. 初めて見るマーじゃんの機械。全自動で、下から並んだ牌(パイ)が出てくるのがおもしろい。全席禁煙の清潔な店内。フリードリンク有(お酒なし)でゲームを楽しめる。

2. 店長の市川裕史さん。ご自身も健康・競技マーじゃんのファン。魅力も熱く話してくれました。初めての人にも丁寧に説明してくれて、安心。



1984.4.15 本通商店街 綱引き大会

ノスタルジック写真

福山本通商店街
1980年代



商店街の
昔の写真を
大募集！！

よんまち新聞編集部では、商店街が映った写真や、当時のお店や人の様子がわかる写真などを募集しています。(対象/本通商店街・本通船町商店街・JOYふなまち・きたはま通り商店街)
撮られた年代やどのような時に撮られたものか(分かれば大丈夫です)写真と一緒に添えて下さい。
いただいた写真の中から編集部で選んだものを、よんまち新聞にて紹介させていただきます。
写真はカラーコピーしたものを下記の住所宛に、またはスキャンしたものをメールで送付下さい。

〒720-0046
郵送 広島県福山市今町2-9 よんまち編集部宛

メール yonmachi.newspaper@gmail.com

1984年4月15日、本通商店街では、3代目アーケード完成祝として、長い商店街をみんなで公平に店の前で面白いイベントをしよう!という若手の発案で、綱引き大会を開催。職場対抗、高校、専門学校の女性チーム対抗、柔道部、体操部対剣道部、学区対抗などなど、市内の老若男女が競いあいました。写真を見ていると、当時の人の歓声が伝わって来るようです。本通商店街は、今も昔も、商店街主催のイベントが行われています。時代の変化に添いながら、これからも人の笑顔が溢れる場所として、引き継がれて行くことと思います。

今号でご紹介したお店MAP



よんまちとは？

よんまちは、中心部東地区の、四つの商店街「きたはま通り商店街」・「船町宝船会商店街」・「本通商店街」・「本通船町商店街」が手を結んで「福山らしさ」を発信しようと2017年の6月に発足した「福山駅東地区4商店街連携協議会」の通称です。

この4商店街は、江戸時代に作られた2つの橋、「木綿橋」と「天下橋」という橋を共有しながら、城下町の中心地として栄えてきました。このきずなを大事にして、「地域の懸け橋、未来への懸け橋」を合言葉に各々の個性を発信し、福山駅東地区の活性化に連携して取り組もうとしています。

